

デーヴォ ガイド



2022.7.4-10

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

LTG ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

30 ダビデの賛歌。家をささげる歌

30:1 主よ。私はあなたをあがめます。あなたが私を引き上げ、私の敵を喜ばせることはされなかったからです。

30:2 私の神、主よ。私があなたに叫び求めると、あなたは私を、いやされました。

30:3 主よ。あなたは私のたましいをよみから引き上げ、私が穴に下って行かないように、私を生かしておかれました。

30:4 聖徒たちよ。主をほめ歌え。その聖なる御名に感謝せよ。

30:5 まことに、御怒りはつかの間、いのちは恩寵のうちにある。夕暮れには涙が宿っても、朝明けには喜びの叫びがある。

30:6 私が栄えたときに、私はこう言った。「私は決してゆるがされない。」

30:7 主よ。あなたはご恩寵のうちに、私の山を強く立たせてくださいました。あなたが御顔を隠され、私はおじ惑っていましたが。

30:8 主よ。私はあなたを呼び求めます。私の主にあわれみを請います。

30:9 私が墓に下っても、私の血に何の益があるのでしょうか。ちりが、あなたを、ほめたたえるのでしょうか。あなたのまことを、告げるのでしょうか。

30:10 聞いてください。主よ。私をあわれんでください。主よ。私の助けとなってください。

30:11 あなたは私のために、嘆きを踊りに変えてくださいました。あなたは私の荒布を解き、喜びを私に着せてくださいました。

30:12 私のたましいがあなたをほめ歌い、



黙っていることがないために。私の神、主よ。私はとこしえまでも、あなたに感謝します。

「ダビデの賛歌。家をささげる歌」という表題は靈感された聖書の本文ではありません。しかし、後代の人々が故あってつけたもので、大いに参考になるものです。「家をささげる」とありますが、これは神の家である神殿をささげたものであろうと思われま

す。それが家であっても、または教会の会堂であっても、それが建てられるというのは、最高の喜びであるとともに栄誉でもあります。ここでダビデは、「あなたに叫び求めると…」と、自分の弱いつ時を思い出して、自分の力で建てたのではないことを示しています。それはまさに主の助けを強調しているということです。

栄誉のときこそ、私たちは思いっきり謙遜になって、主の栄光を表わす必要があります。そうでないと、人からの誉めことばが傲慢の入り口になり、不信仰への方向転換になってしまうからです。自分の謙遜を徹底させましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 火曜

詩篇

31 指揮者のために。ダビデの賛歌

31:1 主よ。私はあなたに身を避けています。私が決して恥を見ないようにしてください。あなたの義によって、私を助け出してください。

31:2 私に耳を傾け、早く私を救い出してください。私の力の岩となり、強いとりでとなつて、私を救ってください。

31:3 あなたこそ、私の巖、私のとりです。あなたの御名のゆえに、私を導き、私を伴ってください。

31:4 私をねらってひそかに張られた網から、私を引き出してください。あなたは私の力ですから。

31:5 私のだましいを御手にゆだねます。真実の神、主よ。あなたは私を贖い出してくださいました。

31:6 私は、むなしい偶像につく者を憎み、主に信頼しています。

31:7 あなたの恵みを私は楽しみ、喜びます。あなたは、私の悩みをご覧になり、私のたましいの苦しみを知っておられました。

31:8 あなたは私を敵の手に渡さず、私の足を広い所に立たせてくださいました。

「早く私を助け出してください」とあることから、ダビデは切迫した危機にあることが分ります。また「たましいと御手にゆだねます」とあることから、心が疲れ果ててたましいにまでも危機が及んでいることが分ります。

このようにあまりの辛さや苦しさで耐え切れそうもないとき、私たちの祈りはさらに真剣さを増してきます。最後には自分自身のたましいまでも、主に



さらけ出して憐れみを乞うでしょう。

そのような祈りこそが愛の主の御手を動かすのです。そのような祈りこそが真実で謙遜で、そして的を射た祈りになるのです。ありきたりではない心からの叫びです。

ですからダビデのように切迫して弱り果てたときこそが、本当の神体験となりうると知りましょう。そしてその神体験は逆転勝利の入り口になるのです。また、もしも常日頃から、そのような真剣な祈りをする者であったら、もっとすばらしい人生になります。もしもあなたの生活が平和な日常であるなら、聖霊によって真剣な祈りへと導かれましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 水曜

詩篇

31:9 私をあわれんでください。主よ。私には苦しみがあります。私の目はいらだちで衰えてしまいました。私のたましいも、また私のからだも。

31:10 まことに私のいのちは悲しみで尽き果てました。私の年もまた、嘆きで。私の力は私の咎によって弱まり、私の骨々も衰えてしまいました。

31:11 私は、敵対するすべての者から、非難されました。わけても、私の隣人から。私の親友には恐れられ、外で私に会う者は、私を避けて逃げ去ります。

31:12 私は死人のように、人の心から忘れられ、こわれた器のようになりました。

31:13 私は多くの者のそしりを聞きました。「四方八方みな恐怖だ。」と。彼らは私に逆らって相ともに集まったとき、私のいのちを取ろうと図りました。

31:14 しかし、主よ。私は、あなたに信頼しています。私は告白します。「あなたこそ私の神です。」

31:15 私の時は、御手の中にあります。私を敵の手から、また追い迫る者の手から、救い出してください。

31:16 御顔をあなたの上にもべの上に照り輝かせてください。あなたの恵みによって私をお救いください。

31:17 主よ。私が恥を見ないようにしてください。私はあなたを呼び求めていますから。悪者はずかしくしてください。彼らをよみで静まらせてください。

31:18 偽りのくちびるを封じてください。それは正しい者に向かって、横柄に語っていま



す。高ぶりとさげすみをもって。

31:19 あなたのいつくしみは、なんと大きいことでしょう。あなたはそれを、あなたを恐れる者のためにたくわえ、あなたに身を避ける者のために人の子の前で、それを備えられました。

31:20 あなたは彼らを人のそしりから、あなたのおられるひそかな所にかくまい、舌の争いから、隠れ場に隠されます。

31:21 ほむべきかな。主。主は包圍された町の中で私に奇しい恵みを施されました。

31:22 私はあわてて言いました。「私はあなたの目の前から断たれたのだ。」と。しかし、あなたは私の願いの声を聞かれました。私があなたに叫び求めたときに。

31:23 すべて、主の聖徒たちよ。主を愛しまつれ。主は誠実な者を保たれるが、高ぶる者には、きびしく報いをされる。

31:24 雄々しくあれ。心を強くせよ。すべて主を待ち望む者よ。

大きな苦難と絶望的な状況の中でこの歌が書かれたことが分ります。彼には助けてくれるはずの親友にまで嫌われてしまったのです。

しかし彼は神に「信頼しています。」と、その信頼を変えません。もしかしたらこんな人もいるかもしれませんが。主に信頼していたのにこの苦難が与えられたのだから、もう主を頼らない…と思う人です。信頼して裏切られるのは嫌だと思ってもいいかもしれません。

しかし何があっても主に信頼し続けることが信仰です。主は今も最善のことをしておられるからです。祈りが聞かれないことを恐れずに、祈り続けましょう。主の沈黙は絶望ではなく、最善への道であり、主の全能による御判断で、願う以上の結果が与えられるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 木曜

Ⅱ コリント

1:1 神のみこころによるキリスト・イエスの使徒パウロ、および兄弟テモテから、コリントにある神の教会、ならびにアカヤ全土にいるすべての聖徒たちへ。

1:2 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。

1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。

1:4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちが慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができるのです。

1:5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。

1:6 もし私たちが苦しみに会うなら、それはあなたがたの慰めと救いのためです。もし私たちが慰めを受けるなら、それもあなたがたの慰めのためで、その慰めは、私たちが受けている苦難と同じ苦難に耐え抜く力をあなたがたに与えるのです。

1:7 私たちがあなたがたについて抱いている望みは、動くことはありません。なぜなら、あなたがたが私たちと苦しみをともにしているように、慰めをもとにもしていることを、私たちは知っているからです。

1:8 兄弟たちよ。私たちがアジャヤで会った苦しみについて、ぜひ知っておいてください。私たちは、非常に激しい、耐えられないほどの圧迫を受け、ついにいのちさえも危くなり、



1:9 ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。

1:10 ところが神は、これほどの大きな死の危険から、私たちを救い出してくださいました。また将来も救い出してくださいます。なおも救い出してくださいという望みを、私たちはこの神に置いているのです。

1:11 あなたがたも祈りによって、私たちを助けて協力してくださいませ。それは、多くの人々の祈りにより私たちに与えられた恵みについて、多くの人々が感謝をささげるようになるためです。

コリント教会はパウロが開拓したのですが、その後反対者の感わしがあって、非常に混乱してしまいました。パウロはコリント教会のために手紙（第一の手紙）を書き、テモテを遣わしましたが、テモテは教会の回復ができずに失望して帰りました。

次にはパウロ自身が訪問しましたが、それでも反対者たちは混乱させることを止めませんでした。次にパウロは手紙（第一と第二の間の手紙）を書き、その後テトスをコリントに送り、様子を聞いたところ、「コリント教会の大半の人々はパウロの言う主のみこころを理解した」ということでした。しかし少数となった反対者はいっそう強情になったということで、教会の混乱が続いていました。そこで書いたのがこのコリント人への第二の手紙です。

パウロはまずあいさつから始めますが、それは人には祝福を神には賛美を宣言するものです。それはクリスチャンの生きる基本的な動機と言えるでしょう。

そしてパウロは人生の苦しみについて語り始めます。人々の心を正しく導こうとするなら、自分

に都合の良いことばかりを願うような話題では、神のみこころには立てないと知ってたからでしょう。事実、コリント教会に混乱があったのは、各自が自己中心な思いで教会というものを捉えていたからです。本当に主の御旨に立とうとする者は、「自分は損をしたくない」とは思わないものです。

教会の主流となる人々は「苦しみをともにし」そして「慰めをもとにもしている」人々です。またそれは「望みを、…神に置く」という本来の信仰につながるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



8日 金曜

Ⅱ コリント



1:12 私たちがこの世の中で、特にあなたがたに対して、聖さと神から来る誠実さをもつて、人間的な知恵によらず、神の恵みによって行動していることは、私たちの良心のあかしするところであって、これこそ私たちの誇りです。

1:13 私たちは、あなたがたへの手紙で、あなたがたが読んで理解できること以外は何も書いていません。そして私は、あなたがたが十分に理解してくれることを望みます。

1:14 あなたがたは、ある程度は、私たちを理解しているのですから、私たちの主イエスの日には、あなたがたが私たちの誇りであるように、私たちもあなたがたの誇りであるということを、さらに十分に理解してくださるよう望むのです。

1:15 この確信をもって、私は次のような計画を立てました。まず初めにあなたがたのところへ行くことによって、あなたがたが恵みを二度受けられるようにしようとしたのです。

1:16 すなわち、あなたがたのところを通過してマケドニヤに行き、そしてマケドニヤから再びあなたがたのところに戻り、あなたがたに送られてユダヤに行きたいと思ったのです。

1:17 そういふわけですから、この計画を立てた私が、どうして軽率でありえたでしょう。それとも、私の計画は人間的な計画であって、私にとっては、「しかり、しかり。」は同時に、「否、否。」なのでしょう。

1:18 しかし、神の真実にかけて言いますが、あなたがたに対する私たちのごとくは、「しかり。」と言って、同時に「否。」と言うようなものではありません。

1:19 私たち、すなわち、私とシルワノとテモテとが、あなたがたに宣べ伝えた神の子キリスト・イエスは、「しかり。」と同時に「否。」であるような方ではありません。この方には「しかり。」だけがあるのです。

1:20 神の約束はことごとく、この方において「しかり。」となりました。それで私たちは、この方によって「アーメン。」と言ひ、神に栄光を帰するのです。

1:21 私たちをあなたがたといっしょにキリストのうちに堅く保ち、私たちに油を注がれた方は神です。

1:22 神はまた、確認の印を私たちに押し、保証として、御霊を私たちの心に与えてくださいました。

コリントの教会には、主のみこころから離れて自己流の考え方を押し通す人たちがいて、教会が分裂・分派などずいぶんと混乱していました。そのような人々は神が立てたパウロを指導者として認めようとしなくて、様々に批判しました。

その中には「彼は『軽率』に計画を変えた。無責任だ。」という発言もありました。それに対してパウロはここで弁明しています。「あなたがたは…私たちを理解している…あなたがたが私たちの誇りである…さらに十分に理解してくださるよう望む」とあります。この信頼を表す表現から、パウロは反対者に対して語るというよりも、むしろ一緒に教会を建て上げる人々の一致のために弁明していると思われます。教会を愛さない人々を変えようとするよりも、まず大切なことは教会を愛する人々の共有と一致です。

パウロは、コリントの人々が「恵みを二度受けられるようにしよう」と周到に計画をたてましたが、その計画を変えざるを得ませんでした。それはコリントの人々への「思いやりのため」と23節に明かしています。反対者はそれをパウロへの

批判の道具としたのです。

パウロはその動機が自分本位ではなく、主の思いに沿ったものであったので、臆することなく弁明することができました。反対者に誤解されるようなことがあっても、勝利は愛の動機にあるのです。

またコリントにはパウロの一面だけを見て、または一部の批判を聞いて惑わされた人もいたようです。私たちは常に祈り深く、主のみこころを聞き、主の「アーメン（しかり）」は何なのかを教えていただく者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？





1:23 私はこのいのちをかけ、神を証人にお呼びして言います。私がまだコリントへ行かないでいるのは、あなたがたに対する思いやりのためです。

1:24 私たちは、あなたがたの信仰を支配しようとする者ではなく、あなたがたの喜びのために働く協力者です。あなたがたは、信仰に堅く立っているからです。

2:1 そこで私は、あなたがたを悲しませることになるような訪問は二度とくり返すまいと決心したのです。

2:2 もし私があなたがたを悲しませているのなら、私が悲しませているその人以外に、だれが私を喜ばせてくれるでしょうか。

2:3 あのような手紙を書いたのは、私が行くときには、私に喜びを与えてくれるはずの人たちから悲しみを与えられたくないからでした。それは、私の喜びがあなたがたすべての喜びであることを、あなたがたすべてについて確信しているからです。

2:4 私は大きな苦しみと心の嘆きから、涙ながらに、あなたがたに手紙を書きました。それは、あなたがたを悲しませるためではなく、私があなたがたに対して抱いている、あふれるばかりの愛を知っていただきたいからでした。

2:5 もしある人が悲しみのもとになったとすれば、その人は、私を悲しませたというよりも、ある程度・・・というのは言い過ぎにならないためですが、・・・あなたがた全部を悲しませたのです。

2:6 その人にとっては、すでに多数の人から受けたあの処罰で十分ですから、

2:7 あなたがたは、むしろ、その人を赦し、慰めてあげなさい。そうしないと、その人はあまりにも深い悲しみに押しつぶされてしまうかもしれません。

2:8 そこで私は、その人に対する愛を確認することを、あなたがたに勧めます。

2:9 私が手紙を書いたのは、あなたがたがすべてのことにおいて従順であるかどうかをためすためであったのです。

2:10 もしあなたがたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私が何かを赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです。

2:11 これは、私たちがサタンに欺かれたいためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。

手紙（コリント人への第一の手紙）とテモテの訪問によっても、コリント教会の状態は改善しませんでした。パウロ自身が訪問しても反対者たちによる混乱は収まりませんでした。

パウロは次の訪問を計画していましたが、「私が行くときには、悲しみを与えられたくない」との思いから、2回目の訪問を断念して、手紙を書きました。それはそうとう厳しい内容だったようですが、それによって教会は自分たちの問題に気づき、問題の人（おそらく反対者の中心人物）を「処罰」しました。

パウロが「その人にとっては…あの処罰で十分です」と言っていますから、問題の人は悔い改めたと思われます。そしてパウロは今や「その人を赦し、慰めてあげなさい。」と言います。

教会はキリストの体ですから一致が必要で、分裂・分派となるようなものは取り除かなければなりません。しかしそれは問題となる人や主張を排除すれば良いというわけではありません。「涙ながらに」と言うパウロのように愛を持って、自分の

ためではなく主の動機で、そして問題の人も教会全体もともに主に従えるように変えられてゆくことです。それによって、本当の一致が生まれるものなのです。

教会全体も、本当に愛を持ってことに当たったかを「確認する」必要があるのです。それは、教会も家庭もセルも、すべての共同体に関しても言えることです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたの中の部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:12 私が、キリストの福音のためにトロアスに行ったとき、主は私のために門を開いてくださいましたが、

2:13 兄弟テトスに会えなかったので、心に安らぎがなく、その人々に別れを告げて、マケドニヤへ向かいました。

2:14 しかし、神に感謝します。神はいつでも、私たちを導いてキリストによる勝利の行列に加え、至る所で私たちを通して、キリストを知る知識のかおりを放ってくださいます。

2:15 私たちは、救われる人々の中でも、滅ぶる人々の中でも、神の前にかくわしいキリストのかおりなのです。

2:16 ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。

2:17 私たちは、多くの人のように、神のことに混ぜ物をして売するようなことはせず、真心から、また神によって、神の御前でキリストにあって語るのでした。

パウロはコリントを訪問してからマケドニアに行き、その後またコリントを再訪問しようと計画していました。しかしまた彼らを叱責して悲しませなければならぬだろうと予想し、コリント教会への「思いやり」ゆえに断念しました。そこで宣教のために「門が開かれ」ていたトロアスに行ったのですが、どうにもコリント教会のことが心配になって、遣わしたテトスが来るのを待ちきれずに、マケドニアまで言って彼に合い様子を聞いたのでした。

そこでコリントの教会が変わったという報告を聞いて、「しかし、神に感謝します。」と心の叫びを上げたのでした。人を変えるのは神様であり、その

ために人間が役に立てるとしてら、主の思いと一つになって真実に関わり、熱心に祈ることでしょう。誰かのために、主の祝福を受けるようにと願うなら、このような愛と信仰に立つパウロを模範とすべきです。

パウロは教会が、すなわち愛する兄弟姉妹が主のみこころに立ち返ることこそを、「勝利」として心から喜べる人でした。私たちは自分の喜びが実際はどこにあるのかを吟味してみることも必要です。もしも神様の勝利とは関係ないところに、自分の喜びがあって、それを願っているなら、信仰の視点がどこかずれているかもしれません。

パウロはそのような神のみわざに参与できることを光栄を感謝しつつ、同時にへりくだって厳かに受け止めています。ですから、自分の目的や考えが通用しないことを知っており、「混ぜ物をして売するようなことはせず、真心から、また神によって」と、心に決めています。

人を愛し導き救う働き、また人を成長に導く働きはどれも主のみわざです。パウロのような厳かな決心が必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

